

かつお一本釣り漁業における新しい餌の開発

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010233

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



かつお一本釣り漁業における新しい餌の開発

本部 開発調査部 開発調査二課

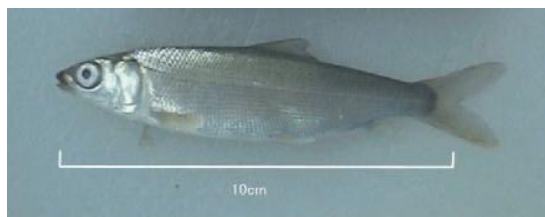
開発調査の背景・目的

海洋水産資源の開発及び利用の合理化のための調査
遠洋かつお釣り：太平洋中・西部海域

1. 太平洋中・西部海域におけるトロカツオ及びトロビンナガを対象とした漁場の開発及び既存漁場の縁辺的拡大を図り、これらを対象とした周年操業の可能性を探求するとともに、当該漁業の合理的な操業パターンの確立を図ります。
2. 活餌イワシ類に代わる魚種としてサバヒー導入の可能性について調査します。

調査結果

1. カタクチイワシとサバヒーの両方の餌を積み込ん



サバヒー



操業風景

だ航海の生存率は、それぞれ58%、92%（図1）であり、生存率が極めて高いことを確認しました。

2. 全量サバヒーを積んだ場合には船上飼育に低温畜養装置を使用しないことから、1日の燃油消費量を約1kℓ節約（図2）できることも確認しました。

波及効果

1. サバヒーの供給体制が整えばいつでもどこでも積み込めるなど、安定した活餌の確保に貢献します。
2. 燃油消費量を年間約250kℓ節約することに貢献します。

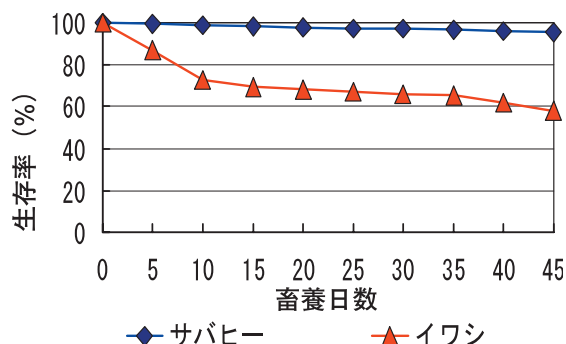


図1 サバヒーとイワシの時系列生存率比較

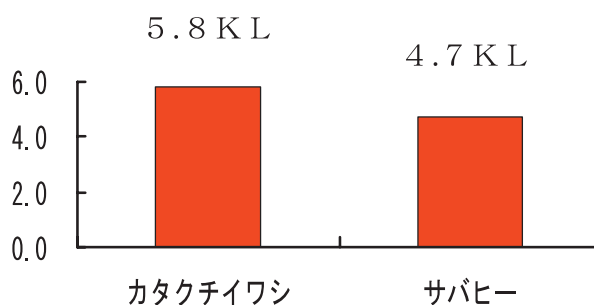


図2 活餌の魚種別1日当たり燃油消費量